



多面的機能の増進を図る多様な取組

平地農業地域

さかいさんじょうし 栄広域協定（新潟県三条市）

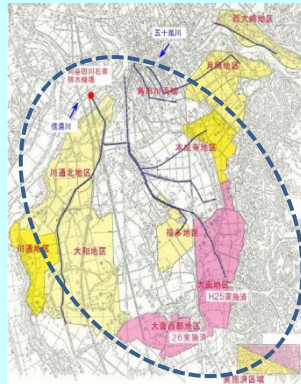
- 本地域は旧栄町の6地区のうち、平成19年度の農地・水・環境保全向上対策から2地区が取組を開始し、平成26年度の制度移行を期に残り4地区が加わり栄広域協定として広域組織化を行った。
- 平成16年度に、市内を流れる河川が一部決壊し、広範囲に湛水・浸水被害が発生したことから、異常気象時の対策や排水機場の運転負荷の軽減が課題となった。
- このため、新潟県で推進している「田んぼダム」を平成20年度から計画的に取り組み、平成26年度からは多面的機能の増進を図る活動として対象農用地を拡大。異常気象時の湛水被害の抑制、排水機場の運転負荷の軽減に効果を発揮している。

【地区概要】

- ・取組面積 2,138ha
(田 1,985ha、畑 153ha)
- ・資源量
開水路 180.0km、農道 163.0km、
パイプライン 126.3km、ため池 2箇所
- ・主な構成員
農業者、自治会、土地改良区 等
- ・交付金 約121百万円(H29)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

活動開始前の状況や課題

- 信濃川の中流域に位置する水稻就寝の低平輪中地帯。



- 農業用排水路から河川への排水は、機場排水に依存

- 平成16年7月の新潟・福島豪雨では、市内を流れる五十嵐川と刈谷田川が一部決壊。広範囲の農地と市街地に湛水・浸水被害が発生。

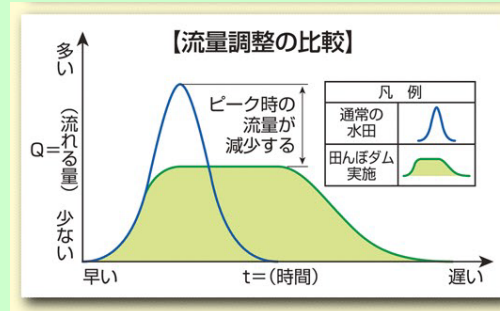
- 本地域は、刈谷田川右岸排水機場のフル稼働により、被害を免れたが、異常気象時の対策や、排水機場の運転負荷の軽減が課題。

取組内容

- 防災・減災の取組として水田の排水口に「調整装置」を設置することで貯留機能を高める、「田んぼダム」の取組を実施。
- 平成27年度は、農家904戸で1,014haの水田で田んぼダムに取り組んでいる。
・最大貯水量203万t(水深20cm)



取組の効果



○「田んぼダム」の取組を行うことで河川への急激な排水を抑制。県内の中越地域でシミュレーションした結果、家屋への浸水被害が54%減少する結果となった。

【田んぼダム設置による効果】

- ・機場の最大運転時間の削減
平成16年度 64時間
平成23年度 46時間

(24時間雨量)

平成16年度7月13日 316mm
平成23年度7月29日 290mm